



## 校内読書感想文コンクール結果発表

### 一次審査（学年代表）

| 学年・番     | 名 前   | 書 名                          | 感想文の題名                 |
|----------|-------|------------------------------|------------------------|
| 1 年 2 番  | 遠藤 秋穂 | レゾンドートルの祈り                   | 自分の存在価値とは              |
| 1 年 7 番  | 西塚 琉太 | 君たちはどう生きるのか                  | 自分で考える                 |
| 1 年 11 番 | 八鍬 結花 | 闇を泳ぐ                         | 周りの人に助けを求め<br>る大切さ     |
| 2 年 5 番  | 甲州 慎吾 | 渚の蛍火                         | 沖縄の歴史を調べる<br>きっかけになった本 |
| 2 年 7 番  | 齊藤 雄斗 | クジラの骨と僕らの未来                  | 過去と未来                  |
| 2 年 10 番 | 長澤 穂香 | 花屋さんが言うことには                  | 花屋さんが言うこと<br>にはを読んで    |
| 3 年 6 番  | 大澤こころ | コンビニ人間                       | 普通                     |
| 3 年 10 番 | 菅 海咲  | ドルフィンデイズ                     | やりがいから学ぶこと             |
| 3 年 13 番 | 高橋 真美 | 無駄に幸せになるのをやめて<br>こたつでアイス食べます | ほっこりいましょう              |
| 3 年 16 番 | 能登ももな | よだかの星                        | 私の青い光                  |



### 二次審査の結果

最優秀賞：1 年 11 番 八鍬結花

題名「周りの人に助けを求める大切さ」

『闇を泳ぐ』 木村敬一著

優秀賞：3 年 13 番 高橋真美

題名「ほっこりいましょう」

『無駄に幸せになるのをやめてアイスを食べます』 コイル著

：3 年 16 番 能登ももな

題名「私の青い光」 『よだかの星』 宮沢賢治著

佳 作：1 年 2 番 遠藤秋穂・3 年 6 番 大澤こころ・3 年 10 番 菅海咲

※1 年八鍬結花の作品を「第 68 回青少年読書感想文コンクール」に応募します。

※最優秀作品は「稲穂」に掲載します。

※表彰は 12 月 23 日（金）2 学期終業式にて行います。



### こんな本にも、目を向けて！



『静かな人の戦略書』 スーザン・ケイン著

騒がしすぎるこの世界で内向型が静かな力を発揮する法聞く力、気配り、謙虚、冷静、観察眼「静かで控えめ」は賢者の戦略。外向型が優位な世界で、内向型がその魅力を最大限に発揮する方法とは？

「現代の静かな闘士たちが絶対に読むべき書」。ついに日本上陸！

『22 世紀の民主主義』 成田悠輔著

世の中の根本を疑え、断言する。若者が選挙に行って「政治参加」したくらいでは日本は何も変わらない。これは冷笑ではない。もっと大事なことに目を向けようという呼びかけだ。何がもっと大事なのか？

選挙や政治、そして民主主義というゲームのルール自体をどう作り変えるか考えることだ。ゲームのルールを変えること、つまり革命である。

22 世紀に向けて、読むと社会の見え方が変わる唯一無二の一冊。

※ぜひ、図書館へ



# 読書の秋にオススメの新刊！



『腹を割ったら血が出るだけさ』 住野よる著  
愛されたいに囚われた女子高生、ありのままを誇る美しい青年自らのストーリーを作り続けるアイドル、他者の失敗を探し求める少年。それぞれの踏み出す一歩が交差して響き合う、青春群像劇。

『#真相をお話しします』 結城真一郎著

子供が四人しかいない島で、僕らは YouTuber になることにした。でも、ある事件を境に島のひとたちがよそよそしくなっていく。日本の〈いま〉とミステリが禁断の融合！ 緻密で大胆な構成と容赦ない「どんでん返し」の波状攻撃に瞠目せよ。痺れる五篇。



『レペゼン母』 宇野碧著

マイクを握れ、わが子と戦え！ 山間の町で穏やかに暮らす明子。女手一つで育て上げた一人息子の雄大は、二度の離婚に借金まみれ。そんな時、偶然にも雄大がラップバトルの大会に出場することを知った明子。「きっとこれが、人生最後のチャンスだ」明子はマイクを握り立ち上がる！

『あさとほ』 新名智著

夏日は、研究室の教授が失踪したとの報せを受ける。先生は、平安時代に存在したがその後失われてしまった「あさとほ」という物語を調べていたらしい。先生の行方と未詳の物語「あさとほ」を追う夏日は、十数年ぶりに明人と再会し、共に調査を始める。二人が行方不明の物語の正体に辿り着くとき、現実が大きくその姿を変える。



『財布は踊る』 原田ひ香著

会社の同僚と平凡な結婚をし、ひとり息子にも恵まれ、専業主婦として穏やかに暮らすみづほ。彼女はある夢を実現するために、生活費を切り詰め、人知れず毎月二万円を貯金していた。二年以上の努力が実り、夢を実現した喜びも束の間、夫に二百万円以上の借金があることが発覚。様々な事情で今より少し、お金がほしい人達の、切実な想いと未来への希望を描く！

## 2022 第二回 映画鑑賞会 in 最上校

### 「100日間生きたワニ」 アニメ

図書委員会企画 第二回映画鑑賞会を9月15日（木）3時50分からPC室で開催しました。1年7人・2年5人・3年5人の合計17人の参加でした。地域活動部活動班・スポーツ班の皆さん、ありがとうございました。あたりまえ。だから、愛おしい。1匹のワニのなんでもなくて、かけがえのない毎日の記録を描いた作品です。

- 大切な人はいついなくなるかわからないので、伝えられるときに、感謝の気持ちを伝えようと思いました。 ・友達大切さがとても感じられる作品でした。
- 思い出の大切さ、友達、家族の大切さが感じられた作品でした。
- 亡くなってしまったことで、周りの人へのあたえる影響が大きいと深く感じ、改めて命の大切さを実感しました。
- 残された皆は、新しい友達が入ることによって、徐々に前向きになり、日常が戻り、精神力の強さが感じられた作品でした。

